

21 (23) 草原の帝国と都市 (比較都市論⑧)

2004/12/20

1 ユーラシア大陸の草原——移動・移住＝都市不要 都市略奪・破壊⇒都市の再建

- 1) 内陸・乾燥 ①ツンドラ、②森林、③ステップ(草原)、④砂漠とオアシス、⑤山岳
- 2) 狩猟から遊牧へ 家畜化(群生動物の追跡)
- 3) 移動の自由 馬 ゲル(移動家屋) 組織的移動(百人隊、千人隊) リーダー

2 草原の支配 インド・アーリアン系(イラン)、ウラルアルタイ系(モンゴル、トルコ)

- 1) スキタイ(BCVII～) 2) 大月氏⇒クシャン(BCII)
- 3) 匈奴(BCII～)フン族(アッチラ⇒ゲルマンの大移動) 秦、漢との抗争(張騫、班超)
- 4) 鮮卑 五胡十六国 5) 柔然 6) 突厥 7) ウイグル 8) カラキタイ(西遼)
- 8) モンゴル ジンギスハーン——大帝国と非定住 グユグ——カラコルム
モンケ——開平府(上都)、フビライ——大都(北京)
西欧進出(キプチャック、チャガタイ、オゴダイ、イル、)

3 オアシス(定住)と草原(遊牧)——抗争・略奪と共存

- 1) シルクロード——東西交流 商品、文化、情報 ←紙・シルク 仏教⇒
- 2) ソグド人(胡人)——交流の担い手 草原都市人
- 3) 砂漠とオアシス——オアシスをつなぐ海、オアシス＝港 カナート
- 4) 東西(交易、文化交流、宗教の伝播)と南北(略奪と支配と共益)

4 草原支配の条件

- 1) リーダーの選出 有能なもの選出 全員の承認 争い
- 2) 連絡網と移動力、身体能力 馬 狼煙 道路?(草原) 弓 人の目
- 3) 色目人の採用 多様な知恵の摂取 多様性の共存とヒエラルキー

5 移動力と破壊力

- 1) 移動＝反定住性＝反都市性
- 2) 柔軟な戦術 移動性の優位 火薬 恐怖

6 サマルカンド(ブハラ)

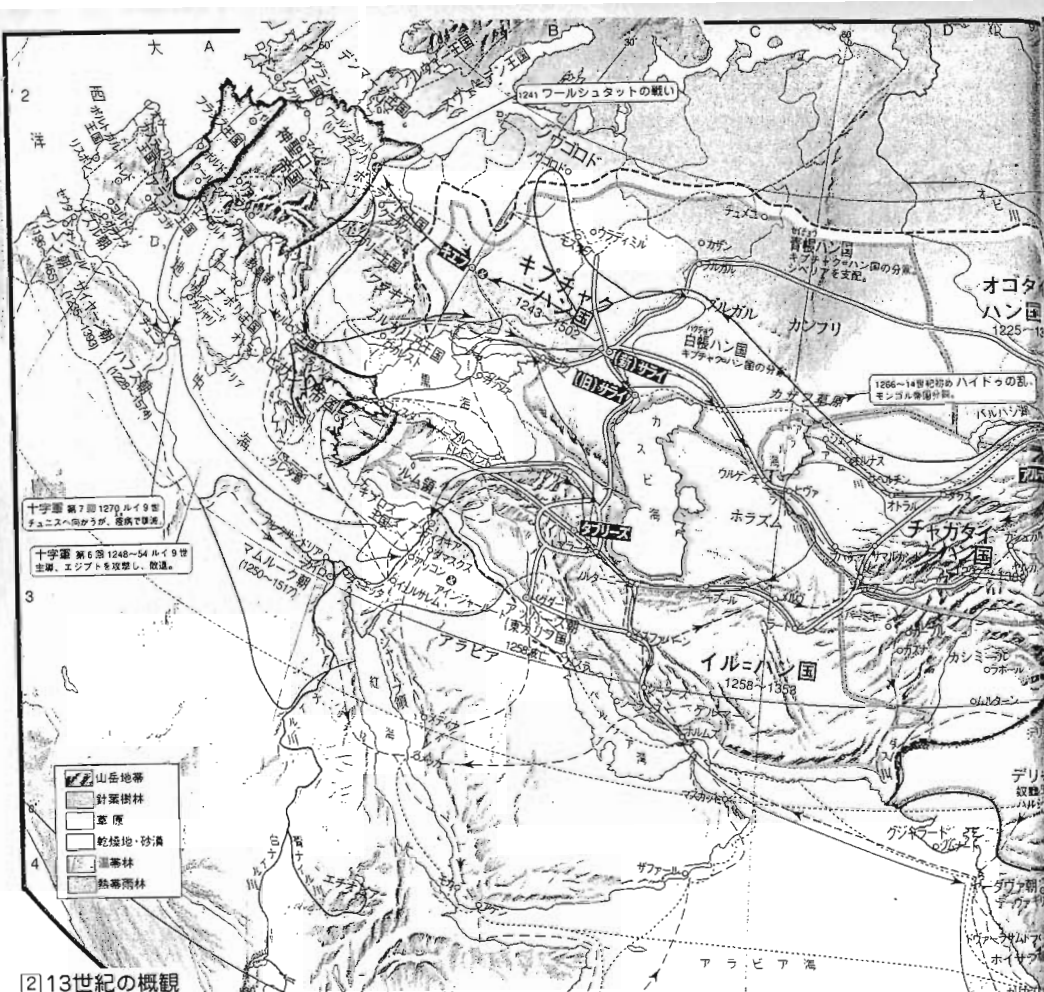
- 1) 東西・南北の十字路 交易拠点 ソグド商人
- 2) 破壊・略奪 廃墟
- 3) 再建 チムール レギスタン広場(イチ、メドレッセ) 天文台

7 草原の諸都市 水利＝オアシス＋カレーズ、シンボル、イチ、宗教、魅力、休息

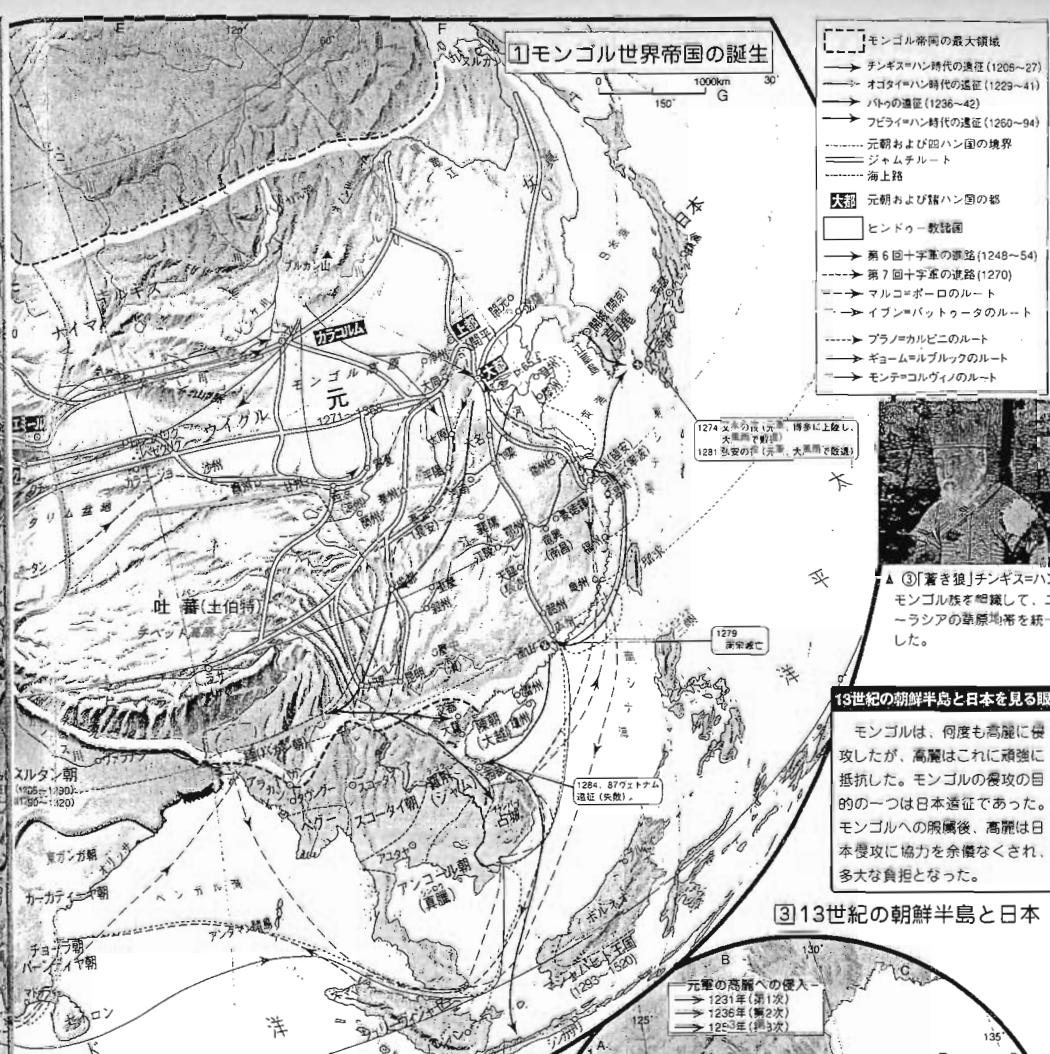
- 1) ヒワ 2) カラコルムと大都 3) パルミラ 隊商都市 ゼノビア

8 草原都市の可能性

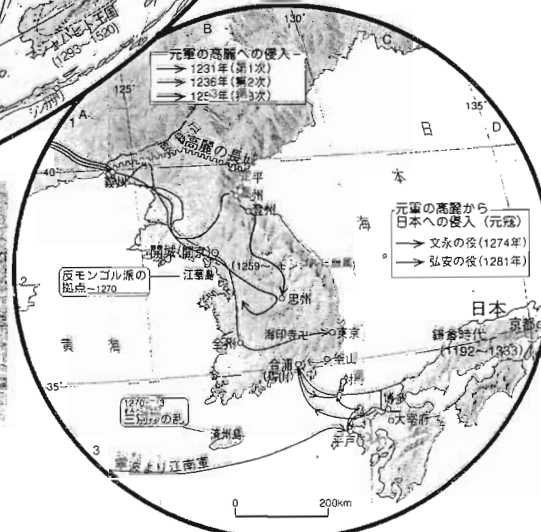
- 1) 移動型都市 季節、出稼ぎ、レジャー型(トレーラーハウス、ボート) 移動首都
- 2) 通信手段(位置の希薄性)、移動手段の飛躍的変革
- 3) キャラバンサライ型 補給基地と移動
- 4) 都市の拡散⇒小単位自立 * コンパクトシティ



①モンゴル世界帝国の誕生



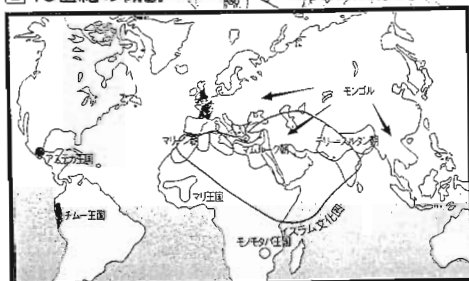
③ 13世紀の朝鮮半島と日本



13世紀の朝鮮半島と日本を見る眼

モンゴルは、何度も高麗に侵襲したが、高麗はこれに頑強に抵抗した。モンゴルの侵襲の目的の一つは日本遠征であった。モンゴルへの服属後、高麗は日本侵襲に協力を余儀なくされ、多大な負担となった。

② 13世紀の概観



13世紀の世界の地図を見る眼

13世紀は「モンゴルの世紀」といわれる。モンゴル後継国を統一したチンギス汗は、内陸アジアの交易路を制し、その権威をもたせ領域を拡大して、空前の大帝国を樹立した。帝国領内に置かれた駅伝制を通じて東西交流は盛んとなり、キリスト教宣教師や使節、ムスリム商人などが往来した。特に元朝は海運を重視し、南シナ海・東アジア沿岸からインド洋方面のムスリム商人のネットワークを掌握し、ユーラシアを隔てる陸海のモンゴリ内陸ネットワークを完成させた。

①ジャムチ(駅伝)制度

広大なモンゴル帝国を支配するために、主要な街道には、40〜50kmごとにジャムチが設けられ、宿舎と400頭の馬が常時用意されていた。さらに各駅間には、ハン宛の通信文を運ぶ飛脚の役を課された集落もあった。飛脚は5〜6kmの距離を全力で走り、次々と交代し、通常10日はかかる大都と上都の間を1日で結んだという。

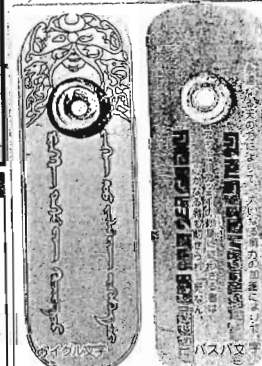
公用で旅する者は、左のような銀牌の手形をもち、ジャムチ制度を利用した。手形には、多民族のためそれぞれの言葉が書かれていた。

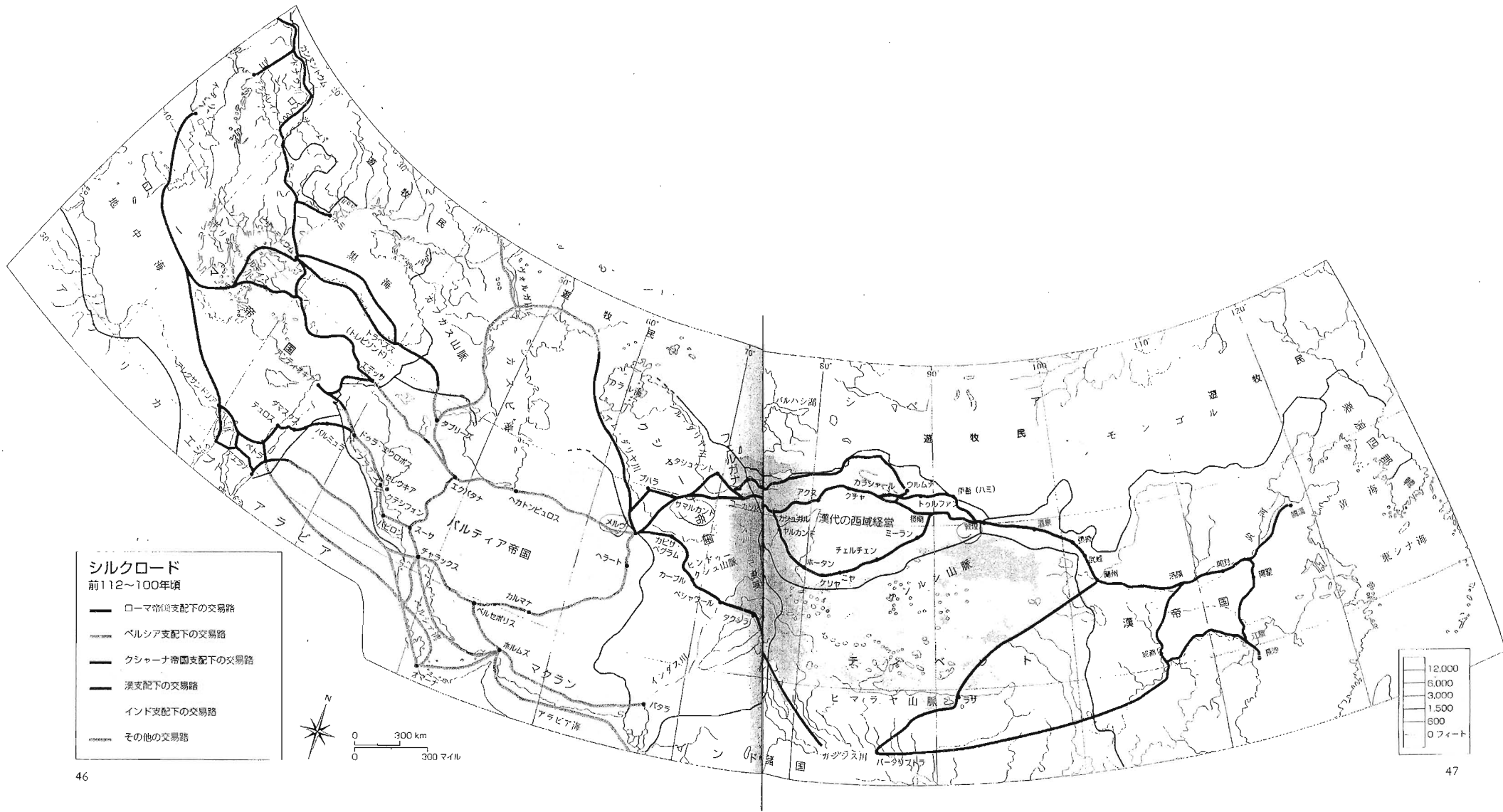
これによって帝国内の交通が便利になり、東西文化交流が促進された。

▲②モンゴル軍の日本遠征(文永の役)
フビライにより南宋攻略作戦と同時に進められ、強かなると「てつはう」は日本軍を苦しめた。『蒙古襲来絵巻』

モンゴル軍の兵力
1274年10月(文永の役)
高麗、元軍…約3万人
船政…約800隻

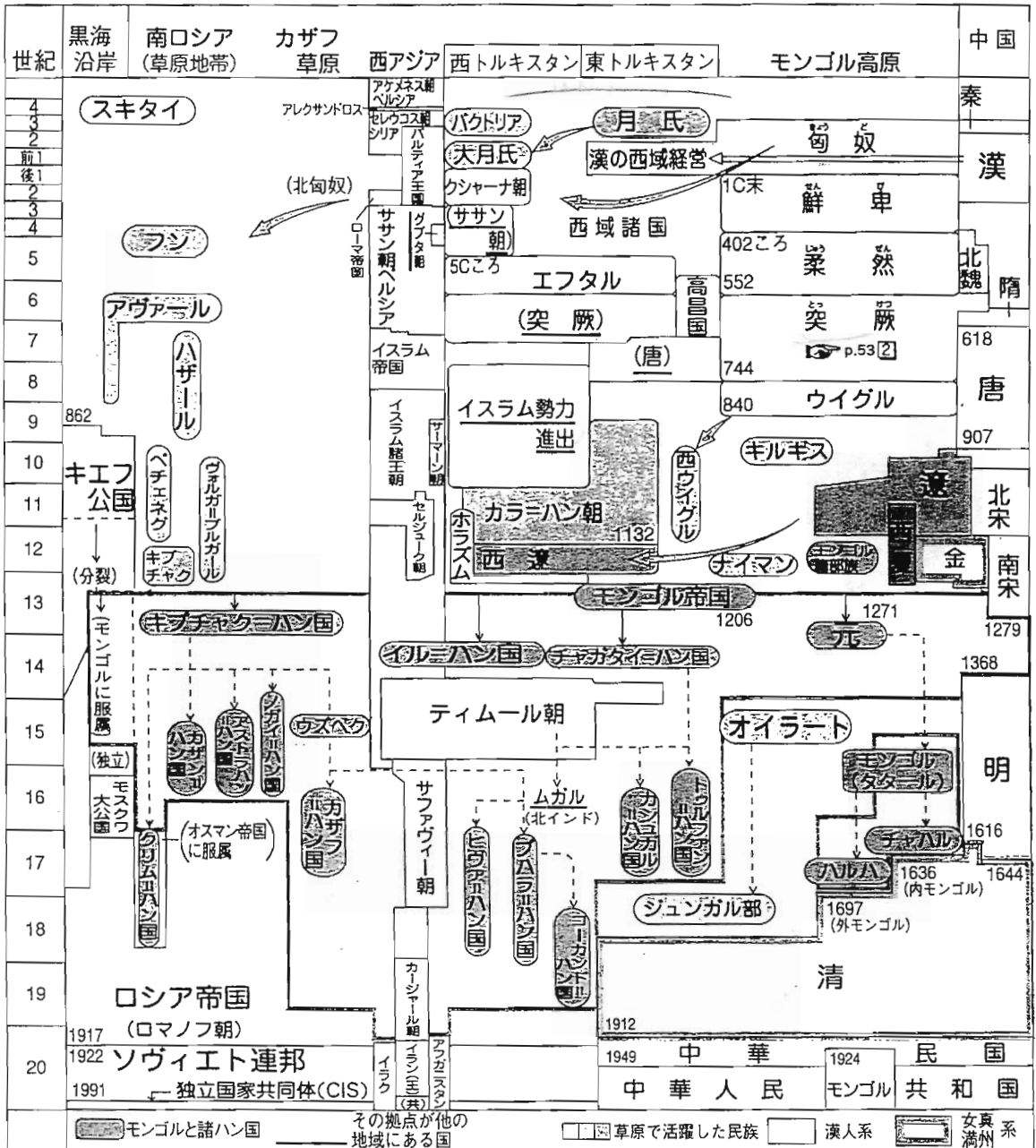
1281年6月(弘安の役)
東路軍(高麗・元) …約4万人
江南軍(中國人主体) …約10万人
船数…約4400隻





1 内陸アジアの諸民族の興亡

民族の移動



2 内陸アジアの風土

モンゴルから黒海まで草原の帯がつづく。

